

本場・富山で越中踊りを披露

8月2日～5日、越中踊り子ども保存会16人(うち小学生5人、中学生6人)が富山県を訪問・交流しました。

同保存会は、富山県からの入植者が多い第二地区のふるさとの踊りを受け継ぐため、同地区の子どもたちを中心に結成された団体。

これまで富山県魚津市から来町したせり込み蝶六(富山県の民謡)の名人に踊りの指導を受けたたり、魚津市に行つて本場のせり込み蝶六を習つた。伝承文化を受け継ぐ活動をしてきました。今回はせり込み蝶六保存会から手足の動き、目線、タイミング、扇子回しなどの細かな技術指導を受けました。8月4日の「じゃんとこい祭り」では本席前で演舞を披露。富山県外の団体が踊ったのは東川が史上初で、東川の子どもたちが踊ることを聞きつけて来場した人々からは「地元の小中学生よりの踊りが上手」と拍手喝采。魚津まつり実行委員会からは「特別賞」が授与されました。日頃の練習成果を發揮し、本場から踊りを認められたことで大き



な自信となりました。地元テレビ局に東川町や越中踊りを受け継いでいる経緯などが放送され、町のPRにも一役買いました。

子どもたちは、富山の地で入植当時の越中踊りに対する想いを体感し、伝統を引き継いでいく意義を実感してくれたことでしょう。同保存会は今年11月3

日に開催予定の町民総合文化祭にも出演予定。本場からも認められた越中踊りにご期待ください。

ゆっくり歩く大雪山の魅力

8月11日(山の日)、旭岳ビジターセンターにて「第2回大雪山の価値を活かすためのフォーラム」を開催し、約60人が参加しました(4年目、通算9回目)。今回は「山ガールの



カリスマとして知られる四角友里氏、北大大学院農学研究院准教授の愛甲哲也氏のお二人による講演とディスカッション。四角氏は無理のない範囲でゆっくり歩くスタイルだと語り、「曇りのち晴れという瞬間は奇跡に出会ったかのよう」、「大雪山は一年分の花を見た気持ちになる」、「東京都心部から大雪山は飛行機で数時間。とても近

い」と語り、来場者も同意の頷き。ひたすら前向きで明るい四角さん。「少しずつ歩くことで自分の「地図」を広げていきたい」、「雨上がりに虹を探すような人になりたい」という言葉が印象的でした。

愛甲氏は「(山に)落とし物してませんか」と山のトイレの状況について解説し、旭岳ビジターセンターは正面玄関に回収ボックスを置いていることを絶賛(携帯トイレも販売中)。

旭岳の紅葉は9月中旬～下旬ごろ。姿見園地をゆっくり歩く「姿見ガイドツアー」も開催中です。みなさんも無理のない範囲で山歩きしませんか？

ダンスはノリノリ、食事美味

8月16日、「第4回ウズベキスタン文化紹介特別プログラム」を開催し、150人以上が参加しました。

今年で6年目の受け入れとなるウズベキスタンからの留学生32名も加わり、母国の文化を紹介しました。留学生によるプレゼンテーションでは、ウズベキスタンは親日国として知られ、治安も良く、日本からはビザなしで行ける

ため観光客が多いことや、四季はあるものの気温は45℃～マイナス2℃と暖かいため果物が甘いことを紹介。続く民族ダンスでは女子はきらびやかに、男子は激しく舞いました。町内の小学生も加わり、5月の「おもいきりDANCE教室」で練習した成



果を披露。最後に来場者はプロフ(チャーハン)をはじめとする伝統料理に舌鼓を打ちながら、流れる音楽に合わせてみんなでダンスを楽しんでいました。

このプログラムは、ウズベキスタンからの町国際交流員(CIR)のナールギーザさんと、留学生が中心となり企画しました。